

## インターバンクの声（2016年5月9日）

ゴールデン・ウィークを締めくくるタイミングで発表された4月の米雇用統計は、非農業部門雇用者数が市場の予想を下回る伸びにとどまり、またしても6月の利上げ観測が後退してしまった。ドル円は東京市場の夕方からずっと107円ちょうど前後で指標発表を待ちかまえていたが、発表後には106円40銭台までドルが売られ、多くの人たちはニューヨーク市場が終わる頃には105円台突入も充分あるだろうと覚悟していた。ただ4日に発表されていたオートマチック・データ・プロセッシング社(ADP)雇用統計がかなり弱い数字となっていたためか、或いは時間給賃金が増加していたことが注目されたのか、一旦ドルが買い戻された後、もう一度ドルが売り込まれてから、ニューヨーク連銀のダドリー総裁から早期の追加利上げ観測を後押しする発言もあって107円台前半に戻している。ゴールデン・ウィーク期間中に急速に円高が進むのではと案じていた人たちにとっては、若干足許の相場には意外感があるかも知れない。再び原油価格動向、中国経済の動向、日本の追加の金融緩和観測などを意識しながら相場を見極めることになりそうだ。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。